

資料 1

令和 5 年度  
山形県献血推進協議会資料

本 編

山 形 県

# 本 編 目 次

血液事業の実施状況について	1
1 全国の状況	1
(1) 献血者数	1
(2) 年代別献血者数	1
2 山形県の状況	2
(1) 献血者数	2
(2) 年代別献血者数	3
(3) 血液製剤の供給状況	3
3 献血推進事業	4
(1) 県	4
(2) 市町村	5
(3) 山形県赤十字血液センター	5

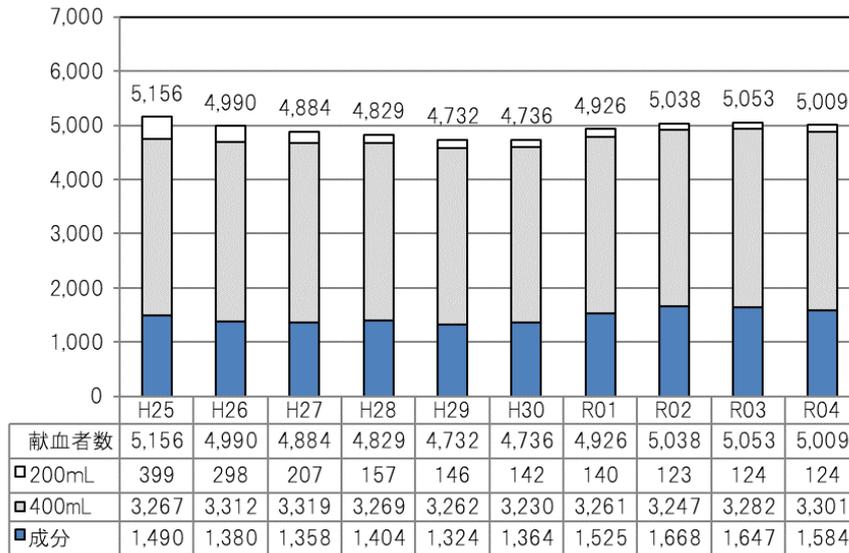
# 血液事業の実施状況について

## 1 全国の状況

### (1) 献血者数

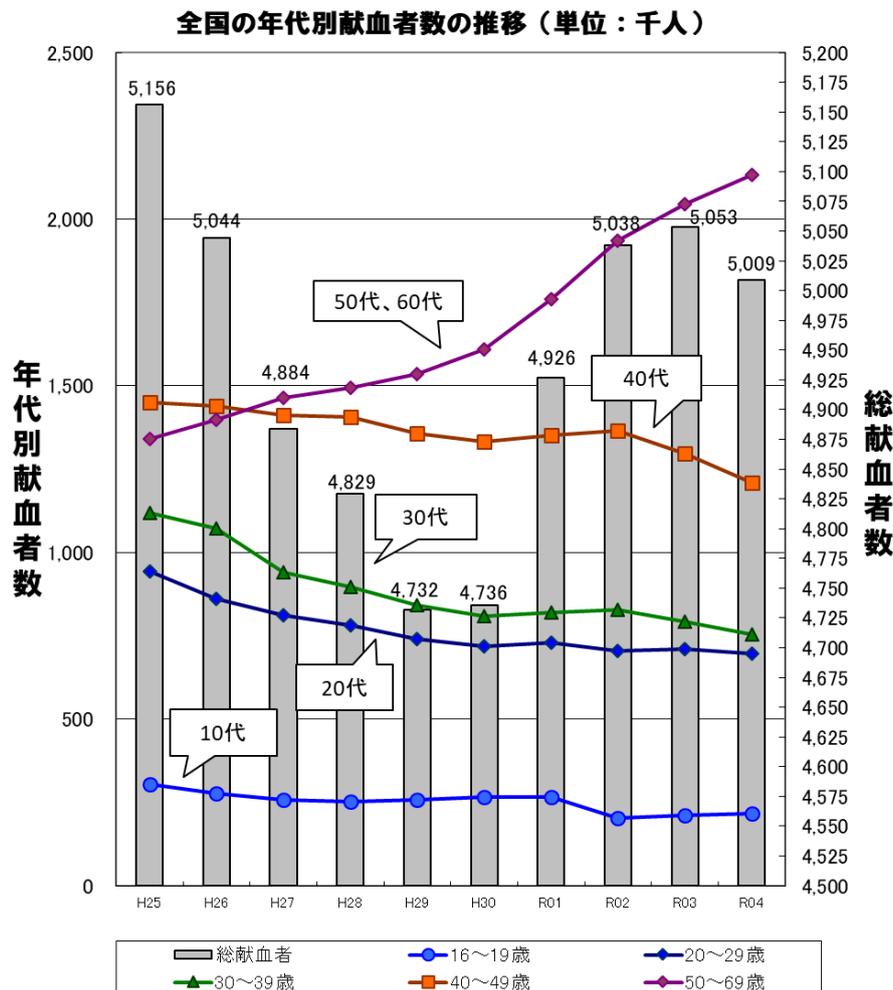
過去10年の献血者数をみると、平成29年度を谷として、その後、増加傾向となっており、ここ3年は500万人を超えている。

全国の献血者数の推移（単位：千人）



### (2) 年代別献血者数

20代から40代は減少傾向であるのに対し、50代、60代は大幅に増加している。

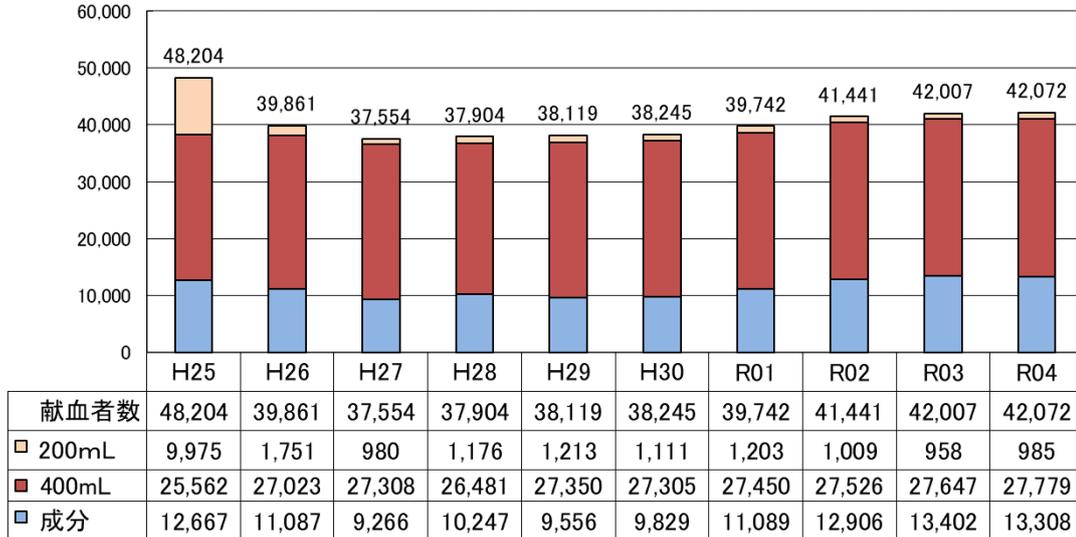


## 2 山形県の状況

### (1) 献血者数

平成26年度以降、県内医療機関からの需要に対応するため400mL献血を推進し、200mL献血の比率を下げたこともあり、献血者数が減少に転じたものの、その後は関係機関の協力により少しずつ増加傾向となっている。

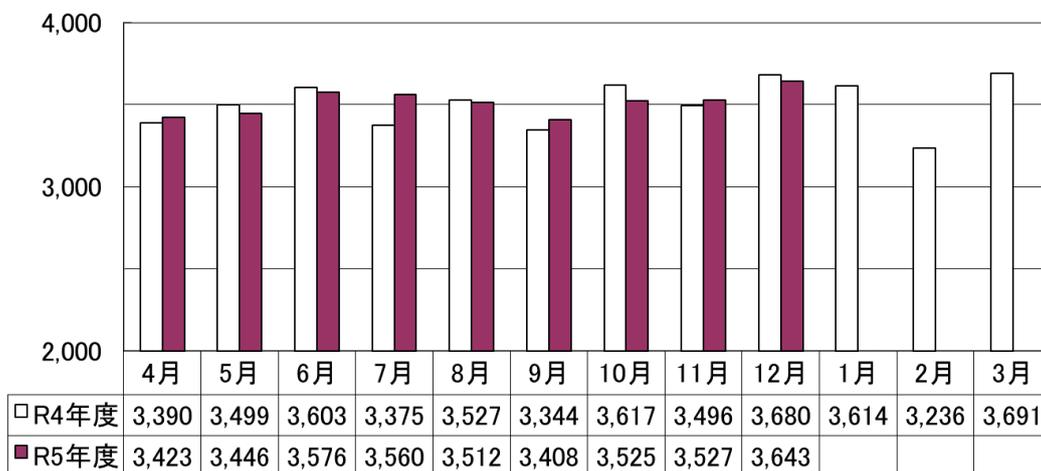
山形県の献血者の推移（単位：人）



令和5年度の献血者数は、12月末現在、前年同期度比100.2%であり、令和5年度目標者数（38,553人）を超える見通しである。

年度	区分	献血者数(人)				年度目標者数(人)	年度目標達成率(%)
		200mL	400mL	成分	合計		
R3年度		958	27,647	13,402	42,007	40,249	104.4
R4年度		985	27,779	13,308	42,072	40,170	104.7
R4年度	(4月～12月)	768	20,780	9,983	31,531	40,170	—
R5年度	(4月～12月) (対前年同期比(%))	626 (81.5)	21,498 (103.4)	9,496 (95.1)	31,620 (100.2)	38,553	—

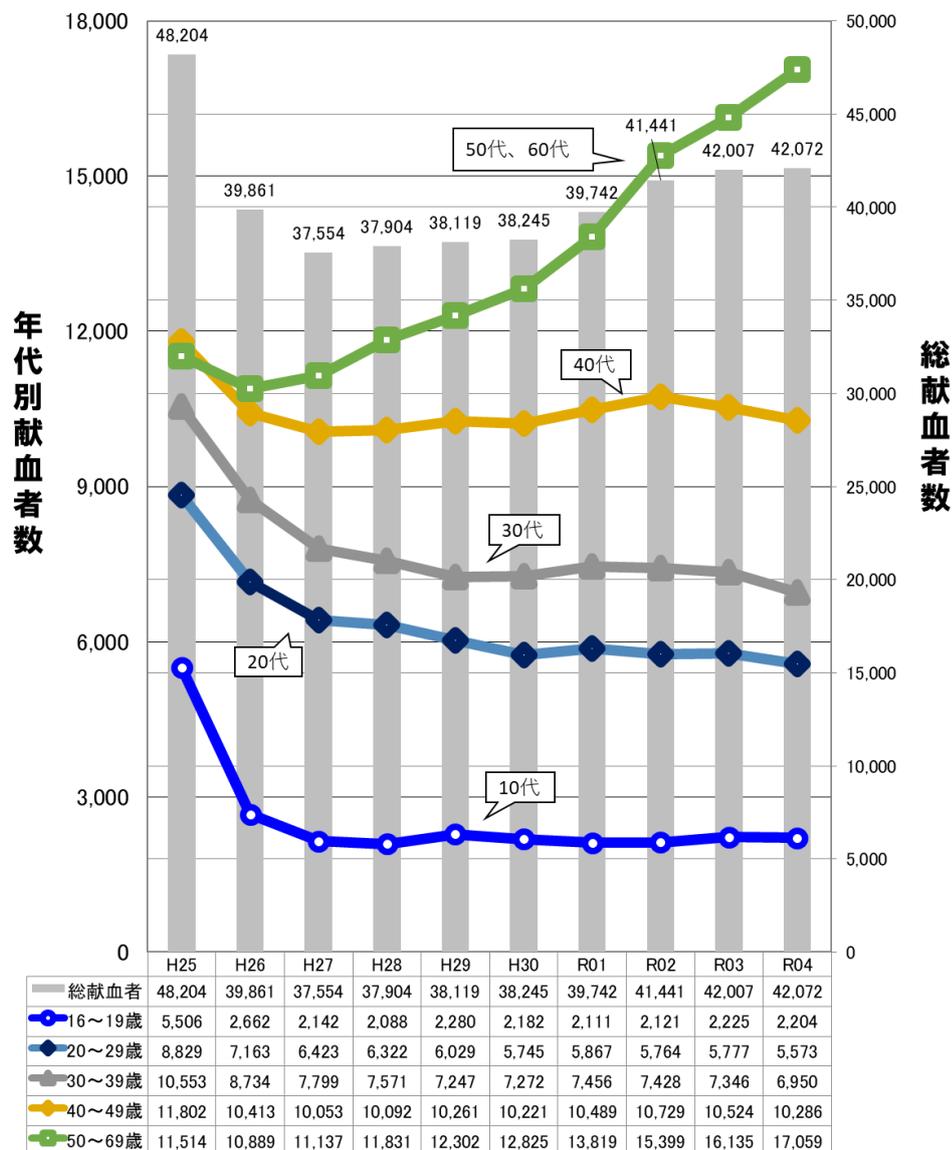
山形県の月別献血者数（単位：人） □R4年度 ■R5年度



## (2) 年代別献血者数

平成26年度に全年代の献血者数が減少に転じた。その後50代、60代は大幅に増加、40代以下は横ばいまたは減少傾向である。

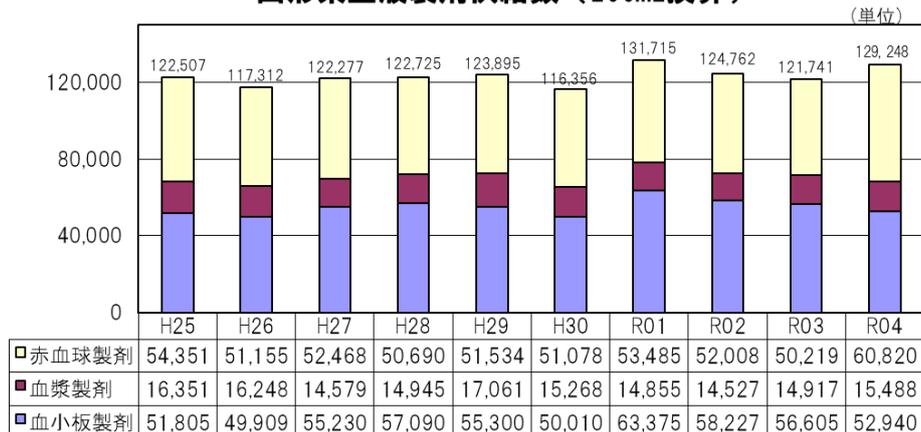
### 山形県の年代別献血者数の推移（単位：人）



## (3) 血液製剤の供給状況

血液製剤の供給数は、おおよそ12万単位から13万単位で推移している。コロナ禍では外来診療の制限により減少していたが、令和4年度は増加した。

### 山形県血液製剤供給数（200mL換算）



### 3 献血推進事業

#### (1) 県

##### ア 広報・啓発活動

県民の献血への理解と協力を得るための啓発事業を実施した。

(ア) 山形県赤十字血液センター（以下「血液センター」という。）と連携した献血セミナーの実施

高校生や大学生等の若年層及び企業の職員等一般県民を対象とした献血セミナーを実施し、献血の仕組みや必要性について啓発を行った。

対象	令和5年度目標	令和5年12月末実績※
高校生・大学生	50回以上	79回
一般県民	25回以上	14回

※血液センター単独実施分を含む

(イ) 街頭キャンペーンの実施

天童市内で開催された「やまがた健康フェア 2023」やショッピングセンター、イベント会場等において、献血啓発リーフレットやティッシュを配布し、啓発を行った。

(ウ) 広報媒体等を用いた献血の呼びかけ

「県民のあゆみ」掲載やスーパーマーケットに啓発ポスターの掲示を依頼することで、県民に対し献血の呼びかけを行った。また、県庁正面ロビーにおいて、献血の普及啓発用DVDの映像を放映するなど、各種広報媒体を活用し、啓発を行った。

##### イ 献血推進員による啓発活動等

献血者確保と普及啓発の強化を図るため、村山、最上、置賜、庄内総合支庁に各1名、計4名の献血推進員を配置し、市町村と協力して事業所訪問等の啓発活動や新規協力事業所の開拓、献血に関する相談、管内採血計画の調整などを行った。

##### ウ 献血功労団体等に対する顕彰

長年、献血の推進に功労のあった団体に対し、表彰状、感謝状の贈呈を行った。

期日・場所 令和5年7月27日（木） 山形県庁2階講堂

受賞団体

厚生労働大臣表彰状	3団体
厚生労働大臣感謝状	9団体
山形県知事感謝状	11団体

##### エ 血液製剤使用適正化の推進

献血血液の有効かつ適正な使用が図られるよう、血液製剤適正使用に係る情報等を医師会や医療機関に送付し周知を図っている。

## オ 関係機関との連絡会議等の開催

献血事業が効果的かつ効率的に遂行されるよう、血液センターとの連絡会議を随時開催し、事業進捗状況の確認及び必要な対応等について打合せを行ったほか、各総合支庁においては、献血者確保等に関して管内市町村と会議を開催し、事業の円滑な遂行を図った。

## (2) 市町村

### ア 献血会場の確保

市町村では、献血協力事業所や協力団体、血液センターと日程を調整し、また、総合支庁を介して近隣市町村との日程調整を行いながら移動採血車の配車計画を定めている。

### イ 住民への啓発

市町村報（広報誌）により周知しているほか、市町村によっては献血日程の全戸配布や回覧板・巡回車による献血の呼びかけを行っている。

また、ホームページ、X（Twitter）、LINEへ掲載及びラジオの活用、成人式やはたちの集いの出席者へ啓発チラシの配布、健康マイレージ事業のポイント付与等を通して献血者の確保を図っている。

### ウ 献血功労者の顕彰等

6市4町において、多数回献血者に対する表彰等を実施している。

## (3) 血液センター

別添資料2のとおり



資料 2

令和 5 年度  
山形県献血推進協議会資料

本 編

山形県赤十字血液センター



## 令和5年度 血液センター事業実施状況

### 1 血液製剤の供給実績

当センターでは、医療機関に安定的に血液製剤を供給するため、3日分の在庫を保有し、東北ブロック血液センターから1日に2回定時搬入をする体制をとっている。

心臓血管外科での手術及び血液疾患の増加により、赤血球製剤、血漿製剤、血小板製剤の使用がいずれも増加し、前年度比108.0%となったが、安定的に供給できた。

区分	令和5年度実績 (単位)	令和4年度実績 (単位)	対令和4年度比
赤血球製剤	45,348	43,852	103.4%
血漿製剤	14,062	13,068	107.6%
血小板製剤	55,370	49,395	112.1%
合計	114,780	106,315	108.0%

※単位換算について

赤血球製剤：「200mL 献血由来」を1単位、「400mL 献血由来」を2単位として換算

血漿製剤：「200mL 献血由来」を1単位、「400mL 献血由来」を2単位、「成分献血由来」を4単位として換算

血小板製剤：1単位20mLで換算

### 2 献血実績

新型コロナウイルス感染症5類移行に伴い、移動採血では、通常の献血実施形態に戻ってきている。また、献血ルームにおいては、コロナ渦で献血を控えていた献血者が戻りつつあることから、葉書やメールにて協力依頼を行い、多くの県民の皆様からご協力をいただき、前年度比で100.2%の実績となった。

#### (1) 献血者数

(単位：人)

	令和5年度			令和4年度			対令和4年度比
	合計	移動採血車	献血ルーム	合計	移動採血車	献血ルーム	
全血献血	24,696	20,195	4,501	24,064	20,121	3,943	102.6%
200mL 献血	679	281	398	857	527	330	79.2%
400mL 献血	24,017	19,914	4,103	23,207	19,594	3,613	103.5%
成分献血	10,529		10,529	11,081		11,081	95.0%
血漿	5,765	-	5,765	7,235	-	7,235	79.7%
血小板	4,764		4,764	3,846		3,846	123.9%
合計	35,225	20,195	15,030	35,145	20,121	15,024	100.2%

## (2) 重点項目

医療機関からの需要及び輸血による安全性向上のため、400mL 献血の推進を図るとともに、輸血用血液を安定的に確保するため、移動採血の稼働効率化を図ることを重点項目としており、400mL 献血率は、目標値 97.1%に対し 97.3%、移動採血車 1 稼働あたりの献血者数は、目標値 45 人以上に対し 43.5 人となった。

### ア 400mL 献血率

目標値	全血献血者数	200mL 献血数	400mL 献血数	400mL 献血率
97.1%	24,696 人	679 人	24,017 人	97.3%

### イ 移動採血車 1 稼働あたりの献血者数

目標値	献血者数	稼働数	1 稼働あたりの献血者数
45 人	20,195 人	464 台	43.5 人

## (3) 定点献血等の実施状況

定点献血会場として、大型ショッピングセンター等で定期的な献血を実施し、前年度比 97.5%の献血実績となった。

(単位：人)

会 場	実 施 日	令和5年度			令和4年度			対令和4年度比
		回数	献血者総数	1稼働あたり	回数	献血者総数	1稼働あたり	
イオン山形北店	年4回	3	158	52.7	3	157	52.3	100.6%
イオンモール山形南	年4回	2	92	46.0	3	133	44.3	69.2%
イオンモール天童	年12回	11	569	51.7	11	639	58.1	89.0%
イオン東根店	奇数月第1土曜日	8	425	53.1	7	394	56.3	107.9%
イオン米沢店	年7回	7	360	51.4	6	363	60.5	99.2%
鶴岡協同の家こびあ	毎月第2土曜日	10	591	59.1	10	614	61.4	96.3%
イオンモール三川	毎月第4土曜日	13	731	56.2	14	764	54.6	95.7%
計		54	2,926	54.2	54	3,064	56.7	95.5%
陸上自衛隊神町駐屯地		3	144	48.0	2	84	42.0	171.4%
合計		57	3,070	53.9	56	3,148	56.2	97.5%

※臨時実施含む

#### (4) 原料血漿の確保実績

血漿分画製剤の原料となる血漿は、安全性の確保並びに倫理的な見地から、その全てを国内の献血でまかなう方針が国から示されており、国内自給率 100%達成に向けて割り当てられた目標量を確保した。

令和 6 年 1 月末時点

原料血漿確保目標	確保実績	実績／目標量
64, 971L	61, 555L	94.7%

※広域事業運営体制のため、青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島 6 県分の合算の数値

### 3 献血の普及啓発

#### (1) 各種団体等との連携

##### ア ライオンズクラブ国際協会 332-E 地区献血推進研究会

実施日	実施会場	内 容
10 月 11 日 (水)	パレスグランデール (山形市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動優秀クラブ表彰及び活動事例報告</li> <li>・各クラブ年間活動実施計画及び報告</li> <li>・献血アプリサービス「ラブラッド」の活用</li> <li>・「献血 1 万人運動」の更なる推進に関する協議</li> <li>・若年層献血者の増加に向けての協議</li> </ul>

県内各ライオンズクラブでは「献血 1 万人運動」を目標の 1 つに掲げ、次の通り献血推進活動に積極的に協力いただいている。

- (ア) 県内商業施設における定点献血及び街頭献血での勧誘、記念品進呈
- (イ) 高等学校及び大学等、若年層献血者に対する記念品進呈
- (ウ) クラブ会員所属企業における献血及び記念品進呈
- (エ) 各ライオンズクラブ主催での献血実施
- (オ) 献血ルームでの献血協力

#### イ 献血セミナーの開催

若年層の献血者確保を図るべく、将来の献血を担う高校生等や子育て世代の親子を対象に、血液や献血に対する正しい知識を学んでもらうことを目的に、献血セミナーを実施した。

	小学校	高等学校	大学	その他	計	令和 4 年度
実施回数	3 回	50 回	19 回	19 回	91 回	87 回
参加人数	22 人	9, 143 人	1, 058 人	807 人	11, 030 人	7, 085 人

## ウ 学生ボランティアの育成

若年層の献血者を確保するため、同年代に対し献血の必要性を呼びかけてもらうことを目的に形成している県内の大学・短大・専門学校を学生を中心としたボランティア組織を拡充・活用し、学生献血推進ボランティアによる献血セミナーにも取り組んでいるほか、各校内での推進活動及びSNSでの広報活動等を展開した。

### 【学生献血推進ボランティア】

山形大学、山形大学農学部、山形大学工学部、山形県立保健医療大学  
山形県立米沢女子短期大学、東北芸術工科大学、東北公益文科大学



けんけつルーム親子で見学ツアーの様子



献血セミナーの様子  
(新庄東高校)

## (2) 広報及びキャンペーン等活動

### ア 広報活動

献血者確保のため、広く県民に献血の普及啓発を図るべく、ホームページを通じ積極的に情報発信するとともに、県内報道機関への情報提供及び取材要請を実施した。

- ・ ホームページによる情報発信（通年）
- ・ SNS（X）による情報発信（通年）
- ・ つなげ、その「ち」からプロジェクト  
テレビ、ラジオ、WebCMの放送（令和5年9月6日～令和6年4月30日）
- ・ 「はたちの献血」キャンペーン  
テレビ、ラジオ、WebCMの放送（令和6年1月1日～令和6年2月29日）
- ・ 献血普及啓発テレビCM「折り紙チッチ」篇の制作・放送（令和2年3月から継続）
- ・ 県内各報道機関への献血予定情報の提供（通年）
- ・ 県内各報道機関へのプレスリリースの発信（通年）
- ・ モンテディオ山形と連携した広報活動の展開（通年）
- ・ パスラボ山形ワイヴァンズと連携した広報活動の展開（通年）
- ・ 県内市町村主催二十歳の祝賀式における広報資材の配付（随時）

## イ 各種キャンペーン等の展開

各種キャンペーン及びイベントを実施し、献血協力を呼びかけた。

### ・全国キャンペーン

実施月	名 称
4 月	めぐる献血（昨年度から実施）
6 月	世界献血者デー（6 月 14 日） ※ ABO 式血液型を発見し、ノーベル生理学・医学賞を受賞した カール・ラントシュタイナー氏の誕生日
7 月	愛の血液助け合い運動
8 月	コミックマーケット 102 献血応援イベント
9 月	『つなげ、その「ち」から』プロジェクト
	シャレン！で献血 ※明治安田生命保険相互会社、公益社団法人日本プロサッカーリーグ及び日本 赤十字社の3者連携による実施 全国各地のJリーグホームゲーム及び献血ルームにおいて献血を展開 <県内の実施> 10 月 1 日：ホームゲーム献血（モンテディオ山形×徳島ヴォルティス戦） 9 月 1 日～12 月 30 日：献血ルーム SAKURAMBO にてキャンペーン開催
12 月	全国学生クリスマス献血キャンペーン 2023
	コミックマーケット 103 献血応援イベント（12 月～1 月）
1 月	はたちの献血キャンペーン（1 月～2 月）

### ・血液センター主催

やまがた春の献血キャンペーン	令和5年4月1日（日）～30日（日） ※3月からの延長
春期の10代～20代の若年層献血者確保を図るため、10代～20代の献血者で希望者 に対し、オリジナル記念品を進呈。	
山形県学生献血サマーキャンペーン 2023	令和5年8月6日（日）～20日（日）内の 一部街頭献血会場にて開催
夏場の献血者確保を目的に、県内の一部街頭献血会場にて、献血にご協力いただいた 方に、学生ボランティアが企画したオリジナル記念品を進呈した。	

・ 献血ルーム SAKURAMBO 主催

成分献血次回予約キャンペーン	令和5年4月3日(月) ～令和6年3月29日(金)
平日の成分献血者確保及び献血事前予約率の向上を目的に、献血終了後、次回の献血予約(平日の成分献血)をいただいた方へ、記念品を進呈した。	
献血ルームでクールシェア!! Summer 献血キャンペーン	令和5年7月1日(土)～9月30日(土)
夏の暑い時期に、献血ルームを涼める場所としてPRし、献血者に快適な場所を提供する「クールシェア」を展開。また、期間中の平日にご予約で献血に協力いただいた方へ、記念品として「冷やしシャンプー」等を進呈した。	
モンテディオ山形応援キャンペーン 「モンテ応援デー」	令和5年2月16日(木) ～11月14日(火)、 11月22日(水)～24日(金) ※期間内の毎週火曜日・木曜日(平日のみ) およびプレーオフまでの期間
毎週火曜日と木曜日を「モンテディオ山形応援デー」とし、特に使用期限の短い血小板製剤を安定的に医療機関に届けられるよう平日の成分献血の協力を求めた。期間中の毎週火曜・木曜に成分献血に協力いただいた方へお菓子を進呈した。	
夏休みの自由研究に!! けんけつルーム親子で見学ツアー	令和5年8月3日(木)～8月4日(金)
小学生向け夏休みの自由研究に活用できるよう、親子で献血ルームの見学とけんけつセミナーを実施した。当日は、献血ルームのほか血液センター供給部門ともオンラインで結び、医療機関へ血液を届ける役割部門の理解を深めた。合計親子8組参加。	



全国学生クリスマス献血キャンペーン 2023  
(イオン米沢店)



### (3) 複数回献血協力及び献血予約の推進

複数回献血協力の推進を図るため、献血 Web 会員サービス「ラブラッド」の登録を奨励し、新規登録者数は前年度比 108.3%である。また、輸血用血液を医療機関からの需要に応じて確保していくためや、献血される方が一時期に集中することによる密集や密接を避けるために、「アプリ版献血カード」や「事前 Web 問診回答機能」を導入したラブラッドアプリ会員の登録を奨励し、献血予約の推進を図っている。

令和5年度 新規登録者数	令和4年度 新規登録者数	対令和4年度比	県内 登録者累計
3,846 人	3,551 人	108.3%	27,668 人

## 4 調査、研究事業の推進

輸血医療の質的向上を目的とした調査研究事業を推進し、適正かつ安全な輸血療法の向上をめざし、県と合同で山形県の血液使用量の 95.6%以上を占める 26 医療機関とともに県合同輸血療法委員会を開催した。

### (1) 山形県合同輸血療法委員会での取り組み

- ア 廃棄血削減に関する取り組み
- イ 適正な輸血の実施に向けた取り組み
- ウ 地域連携を基盤とした取り組み

## (2) 委員会の開催と学会等への参加

実施日	名 称	場 所	摘 要
5月11日(木) ～13日(土)	第71回日本輸血・細胞治療学会総会	幕張メッセ 及びWEB開催	血液センター職員 4名(WEB)参加
6月18日(月)	第25回山形県合同輸血療法委員会	WEB開催	委員37名参加
7月5日(水)	第4回山形県合同輸血療法委員会 看護師部会	山形県赤十字 血液センター	委員11名参加
9月16日(土)	第123回日本輸血・細胞治療学会 東北支部例会	岩手県民情報 交流センター	血液センター職員 5名(現地)参加
10月3日(火) ～5日(木)	第47回日本血液事業学会総会	ウイנק愛知	血液センター職員 10名参加 (現地9+WEB1)
10月18日(水)	山形県合同輸血療法委員会 看護師部会研修会 in 公立置賜総合病院 ～輸血に関するQ&A～	WEB開催	公立置賜総合病院 15名、委員2名、 事務局2名参加
10月28日(土)	徳洲会病院東北ブロック輸血研修会	山形徳洲会病院	講師として 1名参加
11月18日(土)	第26回合同輸血療法委員会 及び 第10回山形輸血療法セミナー	山形県赤十字 血液センター 及びWEB開催	現地9名、 WEB参加29名、 事務局8名参加
12月2日(土)	令和5年度赤十字血液シンポジウム東北	TKP ガーデン シティ仙台 及びWEB開催	現地9名、 WEB1名参加
12月4日(月)	山形県合同輸血療法委員会看護師部会 研修会(上山・置賜・庄内)	WEB開催	対象医療機関 63名、委員6名、 事務局2名参加
12月18日(月)	山形県合同輸血療法委員会看護師部会 研修会(天童以北の村山・最上)	WEB開催	対象医療機関 70名、委員6名、 事務局2名参加

## 5 研修の受入

輸血医学事業の一環として、山形大学医学部生等を対象に、血液事業及び輸血医療に関する研修を実施した。

実施月	名 称	医療機関等	人数
通年	学外臨床研修	山形大学医学部	79名
8, 9, 10月	初期研修医研修	日本海総合病院	3名

## 6 造血幹細胞提供支援の実施

造血幹細胞提供支援機関として、骨髄ドナー登録希望者に対し、事前説明及び登録受付を献血会場にて実施した。

令和5年度新規登録者数	県内登録者累計
514人	8,342人

## 7 血液センターの移転計画

血液センターの移転場所として、山形県農業共済組合（NOSAI 山形）跡地（山形市落合町字千歳 95-1 外）の土地及び建物を取得し、改修して使用することとした。また、駐車場及び冬期の除雪スペースとして、隣接する農地を併せて購入した。

移転にかかる設計及び建築（改修）工事については、令和5年度から令和6年度の計画とし、令和7年3月に竣工予定としている。

時 期	項 目
令和5年3月	不動産契約（NOSAI 山形跡地及び隣接農地）
令和5年6月	不動産登記（NOSAI 山形跡地）
7月	設計監理業者契約
9月	農振除外及び農地転用許可 不動産登記（隣接農地）
令和6年4月	改修工事施工業者契約
5月～令和7年3月	改修工事施工
令和7年3月	竣工



資料 3

令和 5 年度  
山形県献血推進協議会資料

本 編

山形県赤十字血液センター



# 令和6年度 血液センター事業計画

## 1 血液製剤の供給計画

県内医療機関の血液製剤の需要状況を的確に把握し、安定供給に努めるとともに、東北ブロック血液センターとの連携を強化し、血液製剤の適切な在庫管理に努める。

令和5年度の県内医療機関における輸血は、総じて通常どおり実施されており、血液製剤の使用については令和4年度より増加傾向が続いていることから、直近の需要動向を加味し、令和6年度計画については、令和5年度計画より微増の計画とし、前年度計画比105.8%で策定している。

区分	令和6年度 計画（単位）	令和5年度 計画（単位）	令和5年度 計画増減 （単位）	令和5年度 計画比	令和5年度 見込（単位）
赤血球製剤	53,000	51,000	2,000	103.9%	53,460
血漿製剤	15,000	14,800	200	101.4%	15,000
血小板製剤	60,500	55,650	4,850	108.7%	61,845
合計	128,500	121,450	7,050	105.8%	130,305

※単位換算について

赤血球製剤：「200mL 献血由来」を1単位、「400mL 献血由来」を2単位として換算

血漿製剤：「200mL 献血由来」を1単位、「400mL 献血由来」を2単位、「成分献血由来」を4単位として換算

血小板製剤：1単位 20mL で換算

## 2 献血の受入

医療需要に見合った適正かつ効率的な献血受入を推進するため、東北6県合計の供給計画を基に、全血献血は、東北各県の供給計画と献血可能人口を基準とし、献血実績及び採血規模等を勘案し、成分献血は、東北各県の固定施設設置状況や献血実績等を勘案して、東北ブロック内で調整し、献血受入計画を策定しており、令和6年度計画については、前年度計画比100.8%の計画となっている。

	令和6年度計画			令和5年度計画	
	計画（人）	種別構成比	令和5年度 計画対比	計画（人）	種別構成比
全血献血	27,328	70.3%	100.4%	27,222	70.6%
200mL 献血	642	( 2.3% )	82.4%	779	( 2.9% )
400mL 献血	26,686	( 97.7% )	100.9%	26,443	( 97.1% )
成分献血	11,519	29.7%	101.7%	11,331	29.4%
血漿	6,841	( 59.4% )	102.4%	6,681	( 59.0% )
血小板	4,678	( 40.6% )	100.6%	4,650	( 41.0% )
合計	38,847	-	100.8%	38,553	-

### 3 献血の普及啓発

#### (1) 各種団体等との連携

##### ア 行政との連携

県、市町村との連携を図り、採血・供給状況等についての情報共有を密にし、献血者確保に向け協働する。

##### イ 各種団体への協力要請

ライオンズクラブ、ロータリークラブ、商工会、商工会議所、青年会議所、市町村献血推進協議会、市町村消防団、宅地建物取引業協会等、献血推進団体との協力関係の強化を図る。

商業施設をはじめとする街頭献血協力団体の協力を得ながら献血者確保に努める。

##### ウ 献血セミナーの開催

将来の献血の担う小・中・高校生等を対象に、献血に対する正しい知識を学んでもらうことを目的とした献血セミナー開催に向け、各校への働きかけを強化する。

さらに、企業・地域に対しても働きかけを行い、献血推進につなげる。

##### エ 学生ボランティアの育成

県内大学等の学生により構成する「山形県学生献血推進協議会」の拡充を図り、学生ボランティアを育成し、同世代への献血への呼びかけを行う。

#### (2) 広報及びキャンペーン活動の推進

##### ア 県内報道機関への協力要請

メディアを通じ、広く県民に献血の普及啓発を図るべく、県内報道機関への情報提供及び取材要請を積極的に実施する。

##### イ 電子情報媒体の活用

献血会場の告知、血液の過不足状況、キャンペーン情報等を、ホームページを通じ積極的に発信する。また、献血 Web 及びアプリ会員サービスである「ラブラッド」を活用し、メール・SNS 配信による会員への情報提供の充実を図る。

##### ウ 各種キャンペーンの展開

国民及び県民に対する献血の普及啓発を目的とした各種キャンペーンを展開する。

実施月	内 容
通年	『つなげ、その「ち」から』プロジェクト
6月	世界献血者デー
7月	愛の血液助け合い運動
8月	学生献血サマーキャンペーン
12月	全国学生クリスマス献血キャンペーン
1・2月	はたちの献血キャンペーン

### **(3) 複数回献血協力及び献血予約の推進**

献血 Web 及びアプリ会員サービスである「ラブラッド」の会員拡充に努め、複数回献血協力を推進するとともに、移動採血及び献血ルームにおける事前予約を推進し、献血予約率の向上を図る。

## **4 調査、研究事業の推進**

「山形県合同輸血療法委員会」の活動を推進し、「輸血療法セミナー」等の開催により、輸血医療についての最新の情報を共有する等、関係者との相互理解の機会創出に努める。

## **5 研修の受入**

輸血医学事業の一環として、山形大学医学部学生及び県内医療機関に配属の初期研修医のうち、当センターにおける地域医療研修を希望する医師を対象に、血液事業及び輸血医療に関する研修を実施する。

## **6 造血幹細胞提供支援の実施**

造血幹細胞提供支援機関として、骨髄ドナー登録希望者に対し、事前説明及び登録受付を献血会場にて実施し、骨髄バンク事業を支援する。

## **7 血液センターの移転計画**

移転にかかる建築（改修）工事については、令和6年5月から施工し、令和7年3月に竣工予定としている。

